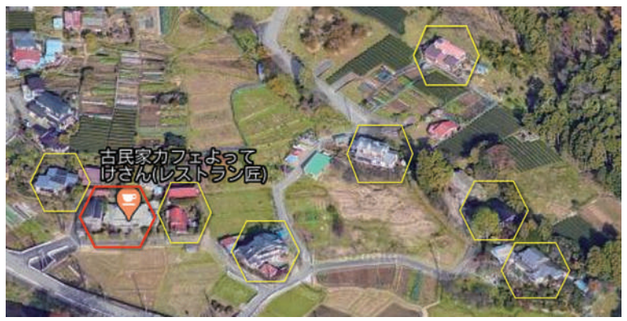
住まい活動助成

NPO法人結の樹よってけし

神奈川県清川村

中山間地域の集落にある空き民家を活用した地域が繋がる場づくりの活動

大学生の協力を得て古民家をリノベーション



河原地区に点在する民家。全世帯が80歳以上で苗字が石川さんの親戚同士。10年後には9割が空家となり、耕作放棄地の畑と荒地になる。よってけさんを中心としたネットワークの構築を目指す

団体設立経緯

神奈川県下唯一の村である清川村に嫁いだ法人代表が、6年間村の社会福祉協議会に勤務した体験から、村の閉鎖的な考え方や自分ごとで考えない地域性に危惧を抱きました。住民アンケートでは75%が村で住み続けたいと答えていますが、そのためには行政任せではなく、自分たちで解決したり、問題に声を上げたりしていく住民性が必要だと考えました。

そこで、長年住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会の構築を目指して2013年頃から活動を開始、清水ヶ丘団地内の空き家を改装し、2015年10月にNPO法人を設立しました。

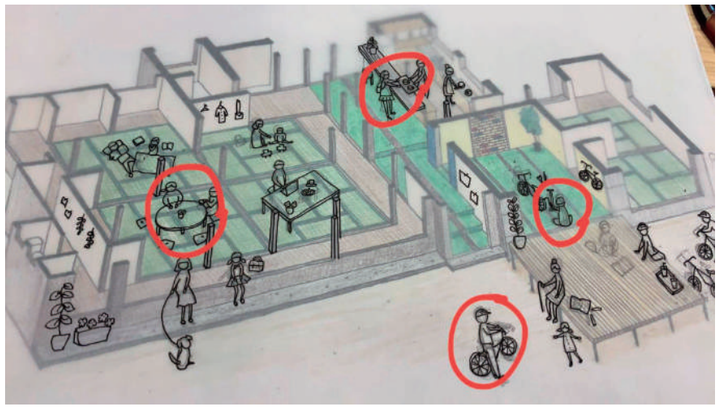
活動概要と活動対象範囲

当初に活動を開始した空き家は一定の目標を達成したため、2019年4月から、村内の河原集落に新しい活動拠点として、築180年の空き家を「**古民家カフェよってけさん**」として整備してきました。

今回は地域や大学との協働により、地域再生の拠点づくりや地域に開かれた関係づくりの場、活動のネットワークづくり、人的なネットワークの構築を目的とし、この拠点自体が、周辺の民家の新しい姿を構想していく上でのモデルハウスとなるよう活動していきます。

活動に至った理由や背景

この場所にも、後継者不足による耕作放棄地と空き家が年々増加し、深刻化しています。そうした土地や建物を地域に開き、様々なつながりを生む場として再生させていきたいと考え、地域や大学との協働により、この民家を新しい「地域のつながりの場」とする活動を始めました。



（**上の写真**）計画段階での床下の調査（**下の写真**）アイデアを出し合いながら、レイアウトを詰めていく

活動内容と成果

【活動1】民家・集落の調査

東京工芸大学建築学部建築構法の森田芳朗研究室のゼミ生10名と、同大学建築史海老澤模奈人研究室のゼミ生2名が中心となり、2019年4月～20年1月の期間中、民家の調査に当たりました。

第1回、4月24日には同大元教授の清水擴先生を迎え、民家の視察を依頼。約150年～200年前に建造されたものであると見立てられ、この民家はおおよそ築180年と推測されました。

調査活動は、住宅の周辺状況、集落の歴史（インタビュー・資料調査）、間取り、屋根裏と床下の構造、実測など多岐にわたり、継続的に実施しました。登記簿によるとこの民家は1941年に建設されたもので石川家の本家であり、小鮎川沿いには分家が現存しています。この分家の1人からは、「川が今のように整備される前は、氾濫して家が流されることもあった」という聞き取り結果を得ました。実際に彼が幼少期を過ごした家は、川の氾濫後に物置小屋を改造して移り住んだものであり、高台に建築されたものでした。

9月に庭の工事を始めた際には、掘り返した土の層に川石が発見され、この民家のすぐ近くまで川が氾濫した形跡が確認されました。

【活動2】アイデアワークショップ

現地調査及び実測した後に模型を作成し、民家の利用法に関するアイデアを創出するワークショップを実施しました。

建物は124m^{2}の広さがあり、台所、作業場のほか、大勢の人が集まれる居場所、地域に開かれた縁側づくりなど、学生と一緒に空間利用のアイデア出しを進めました。6月には相模原市にある「廃材エコビレッジゆるゆる」を視察し、古い物を利用したアートな空間づくり、トイレのコンポスト、なによりワクワクした気持ちが伝わる場所を作っていることに刺激を受けました。

「よってけさん」も玄関から裏庭に抜ける見通しの良い空間づくりや、サイクリストをターゲットにした靴のまま室内で飲食ができる部屋を作るなど、運営側の希望を取り入れながらも若者の斬新なアイデアを融合させていきました。この家にあった使えそうな扉や桐ダンスなども、有効活用して作っていきました。

靴のままどこまで入れるようにするのか、靴を脱いで上がる人との動線はどうするのか、人工芝がずれるのを防ぐ方法など、課題は山積みでした。学生側の意見、法人側の意見、保健所との兼ね合いなど、それぞれの立場が交差する意見をどうまとめていくのか、学生と長時間にわたりディスカッションしました。何も作業せず、1日話し合いで終わった日もありました。だからこそ最後には納得したものが完成したと思っています。人工芝のつなぎ目のキラキラタイルはとても印象的なモチーフとして、今もお客様からお褒めの言葉を頂戴します。

9月オープン間近のころ、この場所の名前を考えるワークショップを開きました。厚木時間の藤原様に協力いただき、プロの意見も取り入れながら決めた名前が「**古民家カフェよってけさん**」です。

カフェの命名には、地域に融合する名前を付けたいと思っていました。もともと「よってけし」を作ったときに、地元の人たちからは「よってけさん」と呼ばれていました。「よっ

古民家カフェ
よってけさん
yottekesan

清川村の地形を読み込んだロゴマーク

DIYでリノベーションに取り組む。建具などはなるべく再利用した

参加型ワークショップで漆喰の壁塗りに挑戦。SNSで呼びかけ、学生以外に一般からも参加者を迎えた

1. ウッドデッキを作成中 **2.** 玄関前のアプローチにも一工夫 **3.** 庭の整地には学生が操るユンボが大活躍 **4.** 押し入れをカラフルに彩る

てけ」は清川村の方言で、「上がっていきな」という意味の言葉。その「よってけ」に「さん」をつけて「よってけさん」と親しみを込めて呼ばれていたので、そのままつけさせていただきました。

次はロゴマークです。この辺りはプロにお願いして、清川の山と清川村がおにぎり型をしている地形を合わせたものを作っていただきました。今では名刺や看板、ダスキンのマットにもロゴマークとして活用しています。

【活動3】民家のリノベーション(DIY)

アイデアワークショップを経て、いよいよ建物の改修です。始めに手を着けたのは大掃除。家財一式外に出し、不用な壁や扉は外し、新たな空間を作りました。お宝や骨董品などが出てくることを祈りましたが……残念。半面、何も室内になくなったから見えてくる梁の太さや古さ、雪見障子や昭和の床材など、家から発するパワーを感じ、この空間を存分に生かすためのデザインを練り込む必要を実感しました。

参加型のDIYイベント形式で実施した漆喰の壁塗りには、SNSで呼びかけて参加された一般の方も含め、第1回は17名が参加されました。慣れない漆喰を垂直の壁に塗る難しさは、体験しないとわかりません。予算をはるかに超えた漆喰の材料でしたが、計算通りにいかない所もまた勉強です。この体験が将来のどこかで生かせたらうれしいと思いました。

お店の顔となるキッチンカウンターは、工芸大意匠建築の市原出先生に依頼し、図面を買いていただき、学生が図面通りに作り上げる。それもまた難しい作業でした。

ウッドデッキは少数精鋭で、1週間で作り上げました。単管パイプで足固めする方法を学生が考え、工期短縮と少ない予算で立派なものが完成しました。庭づくりも学生がユンボの資格を持っていたことで、一気に作業が進み、念願の駐車場付きのお庭が完成しました。殺風景な押し入れも、絵を趣味とする大学生が子供がワクワクする絵を描いてくれました。

(**上の写真**) 2019年10月にオープンした「よってけさん」。カフェのランチでは、厚木に実店舗を構える「レストラン匠」のオーナーシェフが腕を振るう (**下左の写真**) 12月、初の落語イベント (**下右の写真**) 20年3月、トレイルランニングの参加者に食事を提供

産業能率大学の学生2名が、よってけさんのPR動画を作成してくれました。その作品は、同大の「デコラボギャラリー」で2019年度の最優秀賞・動画部門賞を受賞しました。

【活動4】地域のつながりの場

9月20日はプレオープンイベント、学生や関係いただいた先生方、協力者を招待しお披露目をしました。

この場でプレゼンをした産業能率大学の佐藤美穂さん、1年前から私たちの活動に共感してボランティアとして参加していただいており、よってけさんのソフト面(運営面)での協力をいただいています。オープンまでの3カ月間、地域課題を洗い出し活動の方向性を決め、イベント運営やSNS発信などで活躍しています。

人がつながる場所として、様々なイベントの会場として活用されています。毎月1回の農体験イベントで沢庵作りやうどん作り、また家族をターゲットにした10月の紙芝居イベントは22名が参加。同月には陶芸教室作品展を、12月は立川らく人落語独演会開催。明けて1月の餅つきと薪割りには、60名の参加がありました。3月は隣の愛川町と清川村を結ぶトレイルランニングが開催され、初のエイドステーションとして約20名の参加者に食事を提供しました。

課題と解決方策

初めての大学との協働で進めた活動でしたが、私たちの経験が少なかったため、大学の先生との意思疎通、時間配分、スタンスのすり合わせが必ずしもうまくいかなかった点が、大きな課題として残りました。学生に期待する部分が大きかったので、作業を任せすぎてしまったことが互いの気持ちの負担となり、気持ちのすれ違いを招いたのは残念な結果です。

10月オープンには間に合わなかった計画もあり、やりたいこととやれることの線引きを理解してあげられなかったことが要因だと考えます。大学が出したスケジュールの中で動くことが大事で、オープン前に夏休みに入ってしまい工期内に作業が進まなかったことは、私たちの管理ミス。この失敗も含め、大事なのはコミュニケーションだということを痛感しました。

今後の予定

清川村は移住や多拠点居住への関心が高いエリアですが、物件のマッチングが難しい地域性でもあります。今後は私たちが中間組織としてサブリースを手掛けるなど、移住希望のマッチングができればいいと考えています。2拠点居住など新しい居住スタイルを組織的に実現し、魅力的な村になることで、過疎化が進む全国の村の再生モデルとなるよう展開していきます。

地域資源の「農」とシェフが生み出す商品で財政基盤を形成し、組織体制を整え、この村で長く活動を続けていきたいと思います。

特定非営利活動法人 結の樹よってけし

2014年9月設立、15年10月法人化／メンバー数:80人／代表者:岩澤 克美(いわさわ・かつみ)

●〒243-0112 神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷1103-51

☎046-288-2595 yottekeshi@kbh.biglobe.ne.jp

yottekeshi.jimdofree.com www.facebook.com/yottekeshi/

地域に眠っている人材を掘り起こし、交流活動に参加できる環境を創出しながら、生活支援を必要とする方々を地域が支える社会を目指しています。